

香美町部活動地域展開説明会 質疑応答まとめ

令和 8 年 8 月 26 日 小代会場 小代地域局 久保井講堂

令和 8 年 9 月 2 日 香住会場 香住文化会館 大会議室

令和 8 年 9 月 3 日 村岡会場 村岡区文化会館 大会議室

Q：地域展開は、中学生だけを対象にした地域クラブなのか。いろいろな世代が集まっているクラブであってもよいのではないか。

A：地域クラブは、基本的には中学生を想定しているが、活動の継続性を考え、小学校、中学校、その先というような団体も問題ないと考えている。

Q：教員の指導者希望は何割ぐらいあるか。

A：令和 5 年のアンケート結果では、3～4 割ぐらい。

Q：中体連の大会は、今後も続くのか。

A：現在の所、継続されると聞いている。

Q：令和 10 年度秋以降に地域展開を行うとあるが、準備ができていない種目はどうなるか。

A：指導者がいない種目はクラブを立ち上げられない。

Q：全員入部制、希望入部制はどうなるか。

A：加入については希望者のみとなる。

Q：今あるクラブチーム（硬式野球など）や地域のクラブ（かけっこクラブなど）への参加、平日は学校の活動で休日だけクラブチームへの参加など、すでにあるクラブチームとの関係はどうなるか。

A：クラブへの参加は習い事感覚で理解してもらいたい。複数のクラブに参加することは可能。今後認定する予定の地域クラブは、これまでからあるクラブチームとは別の、学校部活動の延長として新たに創設するものと考えていただきたい。

Q：地域クラブと学校部活動が並立すると、地域クラブに移る生徒が出て人数が足りず、学校部活動で大会に出られない生徒が出る恐れがある。それは避けたいと思っている。

A：それは危惧するところ。大会や選手登録のスケジュールを念頭に置いて計画的に進めたい。

Q：ハイブリッドの意味がよく分からない。部活はどのように変化するのか。

A：学校の活動から地域の活動へと変化する。教員が部活顧問であったものが、地域の指導員に変わる。

Q：地域の指導者が平日に活動する際、かなり限られそう。平日と休日で、学校部活と地域クラブで参加が異なる生徒(平日のみの参加、平日休日ともに参加)が出る可能性があるが、その参加は自由か。

A：生徒の参加は自由。

Q：香美町として、役場も教員も地域の人も同じ目線で取り組みを進めてほしい。今日の説明は体育系が主で、文化系の説明が不足している。他市では、ずいぶん前から地域で活動している吹奏楽の団体がある。今日の会で、参加者は保護者の心配をしっかりと伝えてほしい。

A：本日の会は、第1回目という事で、今お伝えできることをしっかり伝える場にしたい。

Q：ハイブリット型でクラブを立ち上げるときには、教員のサポートはあるのだろうか。

A：教職員の希望があれば可能。

Q：平日に練習するとなると、夜、ナイターになると思うがかまわないか。

A：平日のナイター練習は私たちも想定している。

Q：何年か前にスポーツ協会の方でもこの話を聞いたが、まだここまでの段階かというのが正直な感想。これで10年に間に合うのか。

A：令和5年にアンケートを実施した。当時は、令和8年の地域展開を目指していたが、国の方針転換に沿って、令和10年の地域展開の目標に変更した経緯がある。推進計画を基に令和10年度の実現に向けて取組を進めていく。

Q：現在、指導者はほぼボランティア、教師の負担を減らす代わりに地域にそれスライドさせてもダメだと思う。子どもたちに教えておられる方は、生活がある中、少ない時間で子どもたちのためにやっておられる。教職員も地域クラブの指導者もそういう部分をちゃんと考えていただければありがたい。

A：指導者の大変さはもちろん理解しているところ。子どもたちのため地域のために協力していただける方をどうサポートできるか、一緒に考えていきたい。

Q：私が吹奏楽をやっている。文化系の話が少なくて残念。

A：整理して改めてお伝えしたい。

Q：中学校本体としてコンクールや大会への出場はもうないのか。

A：それぞれの団体、組織、連盟等の大会やコンクールへの参加のしくみについて、今後とも注視していく。

Q：楽器は大変高額。個人やクラブで準備するのは負担が大きい。町からの支援はあるのか。

A：今学校にあるもの、既存のものを学校から貸し出すという形にできないか検討していく。

Q：学校の部活であれば、先生が生徒の様子をよく分かっているの、些細なことでも気づきやすい。学校に行きにくいけど部活を頑張っているというような話も聞いたことがあるが、学校と部活が離れてしまうと学校で気付いていたものが見られなくなる。どういうふうに地域クラブと学校が連携するか教えていただきたい。

A：学校と地域クラブが連携を取ることは、認定制度の中に含めている。地域クラブは、感覚としては習い事になる。ただ、その場での人間関係の崩れが学校につながって、不登校やいじめにつながってはならないため、情報交換、情報共有等のしくみをつくっていく。

Q：今、小学5年生の子どもは、令和10年に中学生になる。子どもたちの中学生生活は春から始まる。秋以降に地域展開されるとなれば、春から夏までの間、子どもたちはすごく混乱するのでは。

A：秋以降の展開は、代が変わって新チームになるタイミングを想定している。春からこのような流れになるということを、説明できる準備はきちりさせていただく。

Q：クラブの設立は、子どもたちの希望を聞いて設立されるのか、それとも設立されたクラブの中から子どもたちが選ぶのか。

A：指導者がいることが前提となる。指導者がいてクラブが設立し、子どもたちは、認定されたクラブの中から選ぶことになる。

Q：地域クラブには何割ぐらいが参加すると思っているか。

A：半数はいかないというデータもある。

Q：地域クラブの成績が内申書に記載されるとあるが、従来だったら、みんなが部活に入り、同じ土台でスタートしていた。学校は平等に生徒を見るべきで、地域クラブに加入しない生徒には不公平になるのではないか。

A：評価は相対的なものでなく、その生徒の頑張りや成果を認めてあげるものと捉えている。

Q：中学生がいろいろなスポーツに触れられるいい機会だと考える。すごく前向きに捉えている。

A：今後も一緒に取り組んでいきましょう。

Q：令和9年度に先行実施とあったが、その際、部員や設備施設はどの程度必要か。

A：指導者が認定されていることが最優先。今後検討していく。

Q：地域クラブには、他市町の生徒も入れるのか。

A：可能。ただし、県外の生徒については、兵庫県の中体連の大会に出場できないので注意が必要。

Q：地域クラブの活動時間は、夜でもOKか。

A：可能。事務局も夜の活動も想定している。

Q：学校の先生が地域クラブの指導をするなら、何時からできるか。

A：勤務時間の終了後、学校によって異なるが、だいたい16時45分以降になる。

Q：例えば先生が4時半までの勤務だとして、4時から30分ぐらいは部活動にしてもよいという方針にはならないか。それは可能か。

A：教員は、勤務時間内は学校の勤務に従事しなくてはならない。

Q：学校の冬時間はなくなる。

A：活動時間については、それぞれの団体の考えでいただく。

Q：4時から30分、子どもを残して部活ができるのに、4時に学校が終わって、教員が地域クラブで活動できるようになる4時半までは、誰が生徒の活動を見るのか。

A：子どもたちを見ることができる体制を考えていく必要がある。先生の勤務体制は校長が考える仕事となる。

Q：大会への参加について、地域クラブが中体連の大会に参加できるということだが、中学校単位での大会への出場はなくなるのか。

A：中体連の大会は、同一種目での二重登録が許可されていないため、地域展開のタイミングで中学校か地域クラブかで混乱が生じる恐れがある。どちらで参加するか、指導者同士の相談が必要かもしれないし、子どもたちが早めに決定できるよう事務局として準備を進めたい。

Q：県大会、全国大会など補助金がたくさん出ていて保護者の負担が少なかった。クラブになるとすべて保護者負担になり、多額の費用が必要になると活動する子が減ると思う。

A：現在、国からの補助金の活用を考えている。今後も補助金の活用が継続してできるのか、国の動向を注視していく。

Q：ハイブリッド式といっても、中途半端にならないかすごく心配。

A：中途半端になるかもしれないが、地域の受け皿、指導者を少しでも増やせるようにこの方法をとっている。

Q：現在、部活動で県大会や近畿大会に出場した際、町から補助金が出る。その補助はどうなるか。ぜひ、検討課題の最重要点として考えてほしい。

A：令和9年度に検討する。